

[Research Report]

## Preventive enlightened activity against AIDS for youth

Miki Hashimoto\*, Akiyo Hirota\*, Ai Matsumoto\*, Kayoko Yao\*  
Yumiko Kamada\*, Manabu ashikaga\*\* and Hiroshige Nakano\*\*

\* Aino Gakuin College

\*\* Aino University

### Abstract

Following our examination of the medium which performs the important task of preventive enlightened activity against AIDS for youth, we endeavored to prepare a pamphlet that is easily taken up even by indifferent youth.

We distributed the pamphlet to 82 freshmen of C University (46 male, 36 female) and had them complete a self-written questionnaire. The pamphlet is evaluated by the following 6 points, ① size, ② shape, ③ design, ④ size of letters, ⑤ volume of the contents and, ⑥ simplicity.

As a result we have gotten good evaluation on points ①②③⑥. After reading the pamphlet, 95.5% of men and 91.7% of women answered that they were more likely to consider using condoms in their sexual activity.

Furthermore, we recognized in low level in awareness of existence of health center and red ribbon campaign. Consequently, we strongly emphasize the necessity of further enlightening activity.

**Key word** : AIDS prevention, questionnaire, pamphlet, youth

## 若者に向けての効果的なエイズ予防

——パンフレット作成とその評価を通して——

橋本美貴\*, 廣田彬世\*, 松本 藍\*, 八尾佳代子\*  
鎌田由美子\*, 足利 学\*\*, 中野博重\*\*

**【要旨】** 若者へのエイズ予防啓発活動に重要な役割を果たす媒体に着目し、無関心期の若者に受け容れられるパンフレットを作成し、C大学1回生計82名（男性46名、女性36名）を対象として、作成したパンフレットの評価を自記式質問紙を用いて実施した。

パンフレットの評価は、①大きさ、②形、③デザイン、④字の大きさ、⑤内容の分量、⑥内容の分かりやすさについて行った。結果は、①大きさ、②形、③デザイン、⑥内容の分かりやすさは高い評価を得た。パンフレットを読んで今後、性行為時にコンドームを使用しようと思おうと答えたのは、男性95.7%、女性91.7%であった。しかし、保健所の存在、レッドリボンの認識は低く、更なる啓発活動の必要性を強く感じた。

キーワード：エイズ予防、自記式質問紙、パンフレット、若者

### I. はじめに

厚生労働省発表の2004（平成16）年エイズ発生動向の概要<sup>1)</sup>によると、HIV感染者の年間報告件数は、日本国籍・外国国籍合わせて780件、エイズ患者も385件と過去最高である。HIV感染者報告例の感染経路は、同性間の性的接触が468件（60.0%）、異性間の性的接触が200件（25.6%）であり、同性間性的接触のHIV感染者の41%は10～20代の若年層である。また、異性間性的接触では、15～24歳の年齢層で女性が過半数を超えている。

現在までに性感染症予防教育は小、中、高等学校において様々な取り組みが行われているが、十分な効果を上げていない。若者に無謀な性交渉の危険性を理解

させ、コンドームの着用を常に心掛けるように促していくことは性感染症予防に大変重要なことである。

我々は、若者へのエイズ予防の啓発活動のひとつとして、重要な役割を果たす媒体に着目した。現在公共施設に置かれているエイズ予防に関するパンフレットを検討してみると、文字数・ページ数が多く、中には専門的内容表現のものが散見され、読むのに時間がかかるなど無関心期の若者には受け入れにくいと考えられた。そこで我々は、無関心期の若者が、手にとって、目を通し、更にエイズ予防に関心を持つようなパンフレットを作成してその評価を試みた。

\* 藍野学院短期大学専攻科

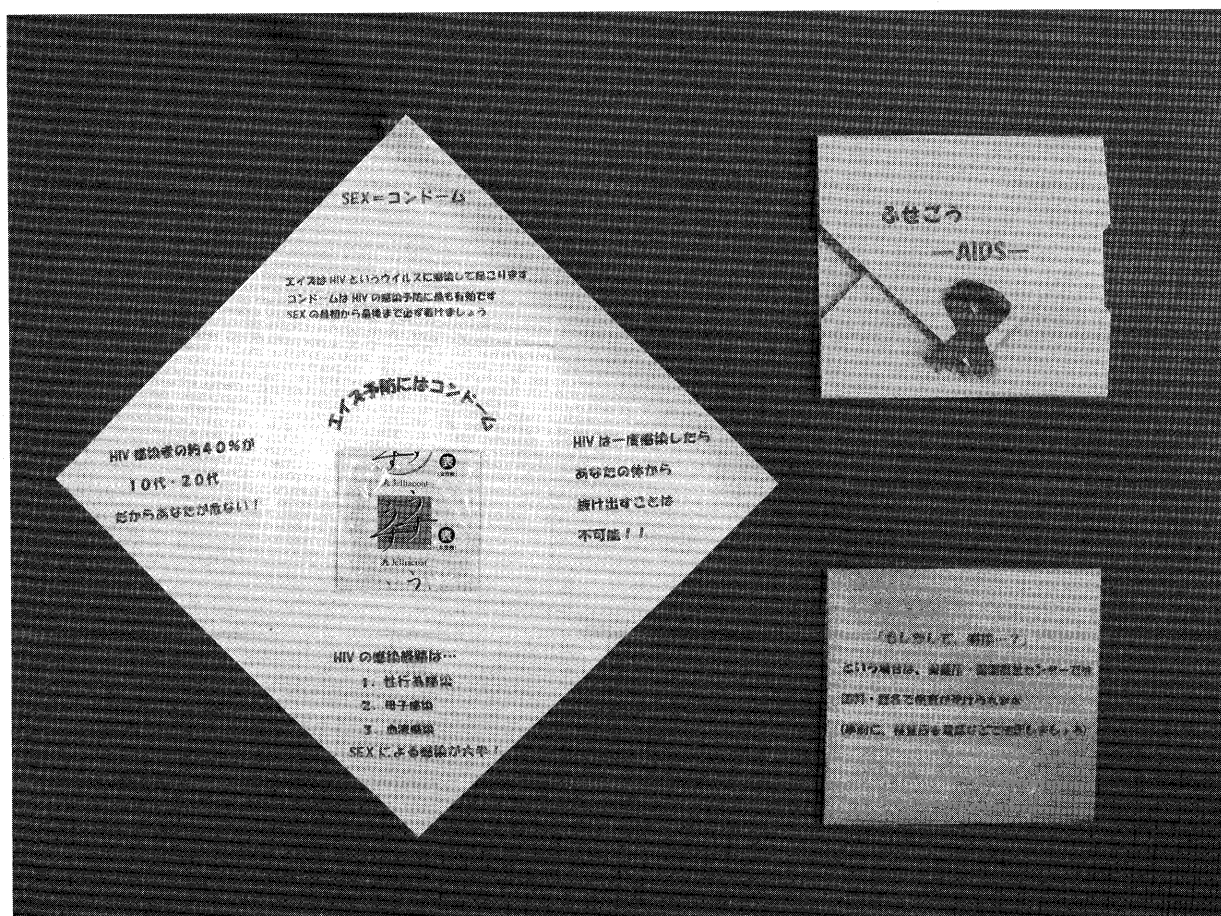
\*\* 藍野大学

## II. 対象および方法

- 1) 対象者：C大学D学科1回生82名（男性46名，女性36名）
- 2) 調査日：平成16年10月1日
- 3) 調査方法：エイズ予防のパンフレットを作成・配布し，自記式調査を行った。
  - ① パンフレットは，大きさ21cm×21cmの用紙中央にコンドームを貼り付け，上下左右にはそれぞれ感染の危険性やコンドームの必要性についての短文を目に入りやすい位置に配置し，それを四つ折りにしてコンパクトに仕上げた（資料1）。
  - ② 自記式質問紙の質問1～2，5～8に対しては「はい・いいえ」の2件法で回答を求めた。質問3については当てはまる評価に○を，質問4については理解できた内容に○を記入させた。質問9，10は自由記載とした（表1）。
- 4) 分析方法：各質問項目について男女間で差があるか否かを明らかにするために，SPSSを使用し $\chi^2$ 検定を行った。

## III. 結果

- 1) エイズ教育を受けたことがあるか否かについて，「はい」と回答したのは男性43人（93.5%）女性36人（100%）とほとんどの学生が教育を受けた経験を有していた（図1）。
- 2) エイズのパンフレットを読んだことがあるか否かについて，「はい」と回答したのは男性33人（71.7%），女性20人（55.6%）と男性の方が約15%高かったが有意差は認められなかった。（図2）。
- 3) パンフレットの評価については，①大きさ，②形，③デザイン，④字の大きさ，⑤内容の分量，⑥内容の分かりやすさの6項目に対してそれぞれ評価を求めた（表2）。①大きさ，④字の大きさについては，男女共に90%前後が「ちょうど良い」と答えていた。②形，③デザインについては，男性は70%前後が「ふつう」と答え，女性は約半数が「よい」と答えた。男女間で比較したところ，②形（ $P=0.033$ ），③デザイン（ $P=0.088$ ）で有意な差が認められ，男性よりも女性により好評であった。



資料1

表1 HIV/AIDS 予防パンフレットに関するアンケート

性別(男・女) 年齢(10代・20代・30代・40代以上)

- 今までに AIDS についての教育を受けたことがありますか。 ( はい ・ いいえ )
- 今までに AIDS に関するパンフレットを手にとり、読んだことはありますか。 ( はい ・ いいえ )
- このパンフレットに関する次の項目についておたずねします。それぞれについてあてはまるものに○をしてください。
  - ① 大きさ ちょうどよい ・ 大きい ・ 小さい
  - ② 形 よい ・ ふつう ・ よくない
  - ③ デザイン よい ・ ふつう ・ よくない
  - ④ 字の大きさ ちょうどよい ・ 大きい ・ 小さい
  - ⑤ 内容の分量 ちょうどよい ・ 多い ・ 少ない
  - ⑥ 内容の分かりやすさ 分かりやすい ・ ふつう ・ 分かりにくい
- このパンフレットを読んで、理解できた内容に○をしてください。(複数回答可)
  - ① 感染者の約40%が10代・20代である
  - ② HIVの主な感染経路は、性行為・母子感染・血液感染である
  - ③ 感染した場合や感染した可能性のある場合は、保健所・保健福祉センターに行けば検査や相談を受けることができる
  - ④ AIDSはHIVウイルスに感染して起こる
- このパンフレットについているコンドームを所持しようと思いますか。 ( はい ・ いいえ )
- 今後、SEX時には常にコンドームをつけようと思いますか。また、つけて欲しいと伝えることができますか。 ( はい ・ いいえ )
- このパンフレットを見て、さらに詳しいパンフレットを読み、知識をえたいと思いましたか。 ( はい ・ いいえ )
- このパンフレットについている赤いリボンの意味を知っていますか。 ( はい ・ いいえ )
- このパンフレットを見て、AIDS 予防には何が一番大切だと思いますか。
- このパンフレットについての感想・意見などを自由に記載してください。

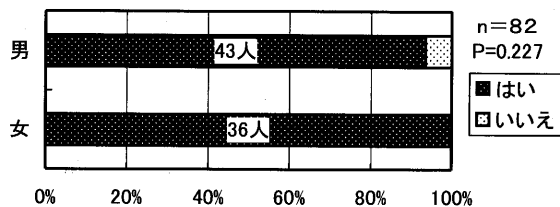


図1 エイズ教育を受けたことがあるか

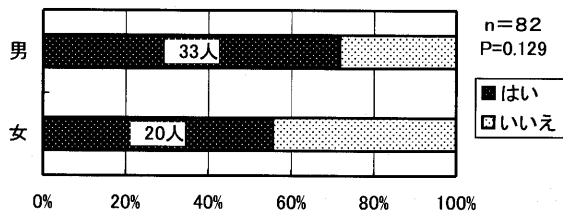


図2 エイズのパンフレットを読んだことがあるか

表2 パンフレットの評価

項目	性別	ちょうどよい	大きい	小さい
		人数 (割合)	人数 (割合)	人数 (割合)
①大きさ P=0.790	男	40 (87.0)	3 (6.5)	3 (6.5)
	女	32 (88.9)	3 (8.3)	1 (2.8)
②形 P=0.033	男	13 (28.3)	33 (71.7)	0 (0.0)
	女	18 (51.4)	16 (45.7)	1 (2.9)
③デザイン P=0.088	男	15 (32.6)	31 (67.4)	0 (0.0)
	女	18 (51.4)	16 (45.7)	1 (2.9)
④字の大きさ P=0.583	男	42 (91.3)	2 (4.3)	2 (4.3)
	女	34 (94.4)	2 (5.6)	0 (0.0)
⑤内容の分量 P=0.018	男	31 (67.4)	1 (2.2)	14 (30.4)
	女	32 (88.9)	0 (0.0)	4 (11.1)
⑥内容の分かりやすさ P=0.991	男	14 (30.4)	31 (67.4)	1 (2.2)
	女	11 (30.6)	24 (66.7)	1 (2.8)

( )内は%

⑤内容の分量については、「ちょうど良い」が男性31人(67.4%)、女性32人(88.9%)、「少ない」が男性14人(30.4%)、女性4人(11.1%)と男性で少ないと感じている人の割合が有意に高かった(P=0.018)。⑥内容の分かりやすさについては、男女とも約3割が「分かりやすい」、約7割が「ふつ

う」と答え、男女共に高い評価が得られた。

4)パンフレットを読んで理解できた内容について○印の記入を求めた。①「感染者の約40%が10代・20代である」は、男性39人(84.8%)、女性28人(77.8%) (図3)、②「HIVの主な感染経路は性行

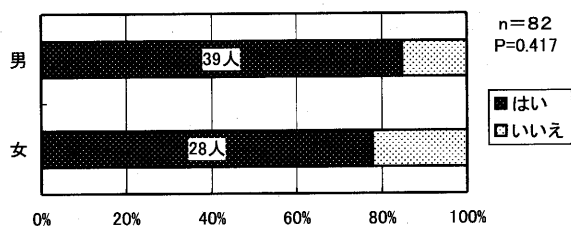


図3 10代・20代の感染者についての理解

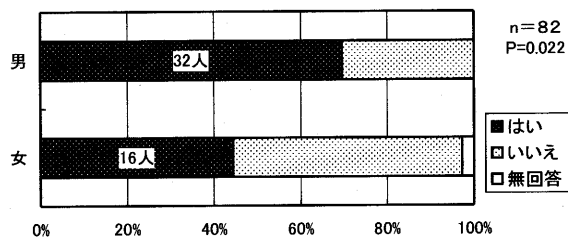


図7 添付したコンドームを所持しようと思うか

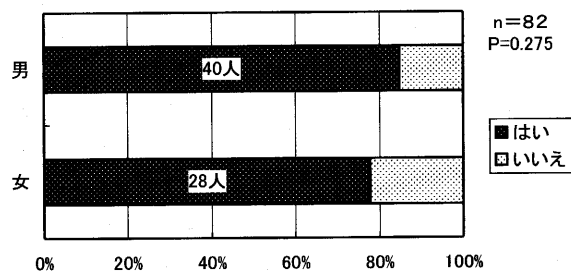


図4 HIVの感染経路についての理解

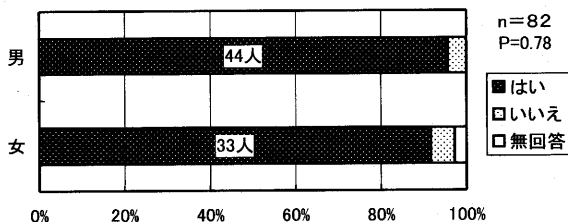


図8 性交時にコンドームを使用しようと思うか

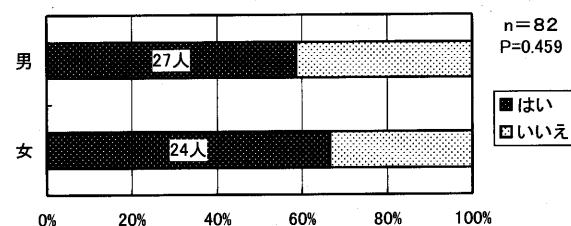


図5 検査・相談場所についての理解

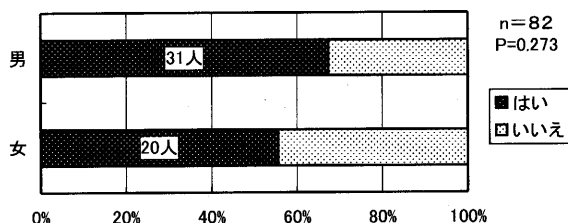


図9 さらに詳しい知識が得たいと思うか

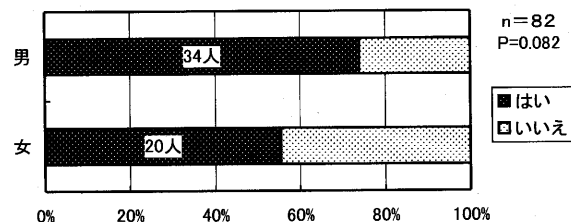


図6 HIVウイルスについての理解

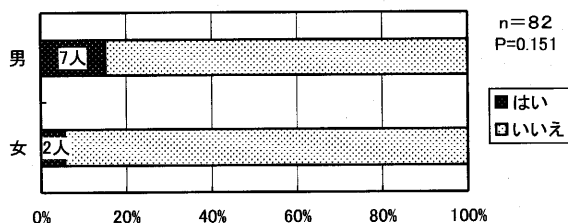


図10 リボンの意味を知っているか

為・母子感染・血液感染である」は、男性40人(87.0%)、女性28人(77.8%) (図4), ③「感染した可能性のある場合は、保健所・保健福祉センターに行けば検査や相談を受けることができる」は、男性27人(58.7%)、女性24人(66.7%) (図5), ④「AIDSはHIVウイルスに感染して起こる」は、男性34人(73.9%)、女性20人(55.6%) (図6)であった。検査や相談機関に対する理解度は、男女ともに他の項目に比べて低く、AIDSとHIVウイルスの関係については女性の理解度が低かった。

5) パンフレットに添付したコンドームを所持しようと思うかについて、「はい」と回答したのは、男性32人(69.6%)、女性16人(44.4%)で男性の方が

高く、有意差 ( $P=0.022$ ) が見られた (図7)。

6) 今後、性行為時にコンドームを使用しようと思うかについて、「はい」と回答したのは男性44人(95.7%)、女性33人(91.7%)と男女共に高かった (図8)。

7) さらに詳しい知識を得たいと思うかについて、「はい」と回答したのは男性31人(67.4%)、女性20人(55.6%)であり、男性の方がやや高い出現率を示した (図9)。

8) リボンの意味を知っているかについて、「はい」と回答したのは男性7人(15.2%)、女性2人(5.6%)であり、ほとんどの学生がリボンの意味を知らなかった (図10)。

- 9) このパンフレットを見て、AIDS 予防には何が一番大切だと思いますか、という質問は自由記述とした。男女共にみられた回答では、「コンドームをつける」が16名、「エイズに関する正しい知識を持つ」が11名であった。その他に、「予防対策を心がける」「本人達の意識」「避妊をすること」「自己管理」「小・中・高校生へのパンフレットの配布が大切」などの記述もみられた。
- 10) このパンフレットについての感想・意見など自由に記述を求めた。「パンフレットの内容をひとめ見ただけでわかったのが良かった」「面白い」「あけてビックリした。この様なパンフレットは初めてだ」「工夫してあった」「気軽に見られて、わかりやすかった」「細かく書いてあるよりも、伝えたいことだけを書いている方がよい」「文章も短くわかりやすいので多くの人に読んでみようと思わせるパンフレットだと思う」などの意見がみられた。

## V. 考 察

今回我々はエイズ予防のパンフレットを作成するにあたって対象者を若者に限定し、文字数・内容の分量を必要最小限にして、分かりやすい内容にすることに留意した。さらに文字の色、文字の大きさ、字体、配置など視覚面を工夫し、中にコンドームを添付し、自ら予防に向けての行動変容に移せるように配慮した。また、パンフレットの大きさはバッグに入りやすいサイズにして携帯性にも配慮した。

パンフレットの評価をみると、サイズ・字の大きさは適切で、形・デザイン・分かりやすさはどれも概ね良い評価を得た。「気軽に見られて、わかりやすかった」「文章も短く分かりやすかったので、多くの人に読んでみようと思わせるパンフレットだったと思う」「かわいらしく、字の大きさがちょうど良かった」などの意見がみられた。特にデザインは女性に好評であり、これはかわいく見せる仕上がりになっていたためと思われる。今回の調査とは別に一部高校生に見せたときも反応はよく、デザインでひきつけることは大切であると考えている。内容の分量については、男性の30%が少ないと答えており、「簡潔にまとめられているが、やや内容が少ない気がする」の意見が見られた。また、さらに詳しい知識を得たいかの回答では、男性67.4%、女性55.6%が「はい」と答えており、女性より男性のほうがAIDSについての知識欲・関心が高いと感じられた。今回は、若者に手にとって見てもら

えることを最大の目的とした導入パンフレットの役割を考えており、既存の詳しいパンフレットへ連動する方法が今後の課題である。

パンフレットの内容の理解については、「AIDSはHIVウィルスに感染しておこる」と「感染した可能性のある場合は、保健所・保健福祉センターに行けば検査・相談を受けることが出来る」の理解度が低かった。これは、基礎的な知識の不足とともに、保健所・保健福祉センターの存在が知られていなかったためと考えられる。基礎的な知識については、短文で理解を深めるのは困難であり、パンフレット配布と同時に説明する時間をとることが、パンフレットの効果を高めるためには重要であると考えられる。さらに、中学校や高校での性教育できちんと知識の定着を図ることを期待する。また、感染症予防の中心的機関である保健所の機能を社会レベルで広くアピールしていく必要がある。

パンフレットについているコンドームを所持するかの質問では、男性約70%、女性約45%が「はい」と回答し有意差が見られた。若い女性は自らコンドームを所持することに抵抗を感じ、携帯する必要性までは考えていないと推察される。井上<sup>2)</sup>は、「女性のほうからコンドームを使ってほしいとは言いにくいということもあります」と述べている。しかし、10代女性の人工妊娠中絶率やエイズを含む性感染症の急増を招いている現状を考えると、若い女性の性に関する危機意識を早急に高める必要がある。そのためには、パンフレットの中に身近な事例を挿入するなど、異性間接触による若年女性の感染者が多い現実を自分の問題として受け止めることが出来るパンフレットの工夫が求められる。さらに、自らコンドームをつけて欲しいと意思表示ができるように働きかけていくことも大切であると考えられる。

このパンフレットを見て「エイズ予防には何が一番大切だと思いますか」の回答では、多数の男女が「性行為時のコンドーム装着」と記述していた。広瀬<sup>3)</sup>は、「エイズの拡大を阻止するためにコンドームの利用をすすめる必要がある」と述べている。エイズ予防にコンドーム装着の必要性は、我々が最も伝えたい内容であるが、実際に行動変容に至るかは未知数である。木原<sup>4)</sup>によると、「日本の若者の性行動の特徴を一言で言うと、“活発化・ネットワーク化・無防備化”で表される。2001年の高校2年生対象の調査によると、コンドーム常用率は低率（A県20%、B県26%）であり、“相手の数が多い人ほどコンドームを使わない”

という傾向が確認された」としている。つまり、ネットワーク化の進んだ社会においては、たとえ“特定の一人の相手”であっても感染の可能性があるという認識が必要となる。岩室<sup>2)</sup>は、「自分のパートナーが感染しているという意識はないわけです。それは、気持ちよければいいとか、他人事意識であったりとか。交通事故と同じで、自分は遭わないと思っている。自分のパートナーだけは大丈夫だと思っている」と述べている。このような若者の実態から、コンドーム常用率を上げるためには、自分だけは大丈夫である、という他人事意識から脱却することが重要であると考えられる。松本ら<sup>5)</sup>は、「感染予防に大変有効であるコンドームを使うことの重要性や大切さをプログラムに採り入れたことによってコンドームに対する認知が深まり、同時にコンドームに触れることでより身近に感じる事が出来、その有用性が受容された」と報告している。パンフレットにコンドームを添付することは、知識以上のインパクトを与えることが出来、少しは自分の問題として考える契機になるのではないかと考えられる。

赤いリボンの意味を知っている学生は、男性 15.2%、女性 5.6% であり、パンフレットにつける意図の理解を促すためにも、リボンの説明を加える必要性を感じるとともに、社会レベルで感染者との共生を目指した啓発がより一層望まれる。

## VI. ま と め

エイズ予防を目的に我々は、若者に受入れられるパンフレットを作成した。自記式質問紙によるパンフレットの評価および意識について男女別に検討した結果、デザイン、内容の分量、コンドームの所持について男女で有意差が見られた。このことから、対象者を

若者に限定するだけでなく、女性向けにはかわいく見せるデザイン性を重視し、男性向けには内容の分量を増やすなど、男性向け、女性向けなど性差や年齢別のパンフレットを作成することが必要だと考えられる。また、HIV 感染事例を具体的に示し、他人事ではないのだと心に訴えるパンフレットにすることが望ましい。パンフレットをより効果的に用いるためには、対象者と対話できる時間を設けることも重要なことである。さらに、保健所の業務内容や赤いリボンのもつ意味については認知度が低かったため、パンフレットだけではなくメディアなどを通じて広く啓発していくことが必要であると考えられる。

## 謝 辞

本研究を進めるに当たり、自記式質問紙調査に御協力頂きました C 大学 D 学科 1 回生の皆様に心からお礼と感謝を申し上げます。

## 引用文献

- 1) 厚生労働省エイズ動向委員会. 2004 (平成 16) 年エイズ発生動向 —— 概要 ——. 2005 [引用 2005-08-16]. URL: [http://www.acc.go.jp/mlhw/mhw\\_survey/04\\_nenpo/gaiyou.pdf](http://www.acc.go.jp/mlhw/mhw_survey/04_nenpo/gaiyou.pdf)
- 2) メディア倫理協会. 評議員対談 (岩室紳也 VS いのうせつこ) 「性」から生へ. 2004 [引用 2004-12-08]. URL: [http://www.media-ethics.com/inoue/fr/taidan\\_007.htm](http://www.media-ethics.com/inoue/fr/taidan_007.htm)
- 3) 広瀬弘忠. エイズへの挑戦: 患者・科学者・メディア・社会. 東京: 新曜社; 1989. p. 325.
- 4) 木原雅子, 木原正博. 青少年の性行動の現状とこれからの性感染症予防教育のあり方について. 学校保健研究 2004; 46 (2): 149-54.
- 5) 松本淳子, 武田敏. ライフスキルトレーニング教育プログラムによるコンドームに対する青年の意識・態度の変化. 思春期学 2004; 22 (3): 337-44.